

学部・研究科名 生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名 吉田穂積

学科名・専攻名 北方圏農学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門学習のために：特論科目の開講、研究の立案、実施、考察、文献検索など 修士論文を完成させるために：特別総合実験・演習科目を開講。 プレゼン能力や文章記述能力を強化する科目を開設している。	モチベーションの向上：研究成果ポスター発表会と表彰。 対話による刺激：演習的授業を工夫。 外部からの刺激：学会発表参加を促し学外交流を奨励した。 オンラインセミナー等に参加とした。	科目ごとに授業記録を取る。 シラバスとガイダンスにおいて評価基準を明示する。	ポスター発表により指導教員以外の専攻の複数指導教員が修士論文の進捗度を把握する。 専攻内の論文発表会、研究科全体での修士論文要旨のチェック、修士論文発表会、指導教員および他の指導教員による修士論文の査読	授業評価アンケートの実施 授業改善計画の作成と提出 毎年度のシラバス作製時の科目内容の改善 修了時アンケートの実施と集計 令和 6 年施行新カリキュラムに改善点を盛り込む。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の専門知識をベースに、修士課程で生物産業を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	【長所】 知識を吸収する意欲を持続させ、地方にしながら世界に通用するレベルと意識をもたせる。	【長所】 教員による一方的な評価に陥らない。 学生にとっては努力に見合った評価。	【長所】 指導教員によるきめ細かい指導。 専攻内の他の指導教員による状況把握	【長所】 学生の授業評価は高い。 各授業担当者の工夫
	【特色】 ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、バイオテクノロジー、動植物生産、生態系保全を高度に学ぶことができる。	【特色】 少人数きめ細かい指導	【特色】 特になし	【特色】 なし	【特色】 高い満足度 高い授業出席率
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 外部講師の依頼は個々の教員に委ねられており、毎年の講師数は変動する。	【問題点】 特になし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・学生の学習志向を尊重しながらも多様な分野を指導し、満足度を得ること。	【課題】 特になし。	【課題】 特になし	【課題】 なし	【課題】 学期ごと教科毎の内容見直しと更新。 見直しを行った科目の効果を検証する。
根拠資料名	学習の手引き、講義要項＜シラバス＞	成果発表会のポスター 授業記録 授業評価	授業記録 研究科委員会会議資料	大学院修士論文発表会要旨集 修士論文	学習の手引き、講義要項＜シラバス＞ 授業評価アンケート結果。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	定められた試験制度の適切な立案と実施 試験日程は事前に専攻主任会議、研究科委員会に付議され承認された後に公示する。 受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。 指導教授と大学院授業担当者による学科試験問題（外国語・専門科目）の作成。指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。 研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否判定をしている。 入学試験問題は公開する。 入試科目名を点検した。	大学院進学者を増やすためには志望者の基礎学力と合格率向上が重要と考え、「英語塾」と称する大学院入試対策講座を前期中に 15 回行った。有志教員 3 人が指導にあたった。 内部（本学部）学生については受け入れ指導教授における進学の意思確認と適性の判断。 外部（他大学または留学生）学生については受け入れ指導教授における事前説明と適性の判断。 専攻主任による確認。 本年度においては、学外から外国籍の志願者はいなかった。 指導教授全員による口述試験における学生の進学の適性判断。 指導教授全員による修士論文の回覧と審査により、学生の到達度レベルの判定と受け入れに対するフィードバック。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学生を指導する指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。 外国語に関しては複数人により問題の難易度を判定している。 専門科目の入試科目名の変更により、受験者が専攻において必要な知識をイメージし易いように考慮した。	【長所】 なし
	【特色】 口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。 外国語試験に関しては、適切なレベルを維持した出題である。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし。	【問題点】 なし
	【課題】 なし。	【課題】 なし

根拠資料名	研究科委員会会議資料	卒業時アンケート結果（研究科委員会会議資料） 修士論文 研究科委員会会議資料 北方圏農学科学科会議資料
-------	------------	--

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。 外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。 植物資源生産学分野と動物資源生産学分野	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。 専攻内は2分野体制である。 植物資源生産学分野と動物資源生産学分野 指導教授は植物資源生産学分野6名、動物資源生産学分野4名である。	教員の採用は一般公募とし、大学のホームページにて募集している。 本年度の教員募集は、なかった。 専攻主任と専攻指導教授による人事検討会議を複数回実施し、人事計画を立案した。 指導補助教員申請（1名）を行った。	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。 依命国外留学制度の利用を呼び掛けたが、昨年につき、世界的な感染症（COVID-19）流行に伴い見込みが付かず、申請が出なかった。	専攻における人事計画（指導教授や指導准教授への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻における指導教授会議の中で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 公募により意欲的な人材採用が可能。 指導教授間で昇任対象者の情報を共有することで、公平性が保たれている。	【長所】 依命国外留学に関しては、 教員の質の向上 国際交流の活性化が期待できる	【長所】 専攻内の指導教授間で共通認識を得ている
	【特色】 オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること。	【特色】 学科の各研究室から進学した学生の修士論文作成に対応可能。	【特色】 資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している	【特色】 1年間の海外で研鑽を積むことにより、教員のスキルアップにつながる。周囲への波及効果が期待される。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 基礎学科で学んだ知識を深めるために、基礎学科授業担当教員全員を大学院授業担当にすべきである。	【問題点】 組織としてバックアップが必要。 留学者の元の所属場所の業務量増加	【問題点】 特になし
	【課題】 なし	【課題】 専攻の分野変更を視野に検討を始める。	【課題】 なし。	【課題】 可能ならば1年間の臨時雇用などの対策	【課題】 なし
根拠資料名	研究科及び専攻の編制方針 教員募集に係る大学ホームページ 学修の手引き 講義要項＜シラバス＞	大学院案内 学修の手引き 講義要項＜シラバス＞ 専攻内会議の資料（非公開）	資格審査委員会資料 専攻内会議の資料（非公開）	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学院案内

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名吉田穂積

学科名・専攻名アクアバイオ学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門分野への学識を深めるため、2つの分野（オホーツク水圏環境学分野、オホーツク水産生物学分野）を設け、それぞれに必修科目を設定している。科目の内容と順次性を考慮した単位を設定している。研究の立案、実施、考察などを実施して修士論文を完成させるために特別総合実験・演習科目を開講している。	年1回、研究成果のポスター発表会を実施している。 外部講師の招聘や学会発表の機会を設け、外部からの刺激を受ける機会を設けている。 教員のみならず、学生同士も議論できる講義を設けている。	シラバスおよびガイダンスにおいて評価基準を示し、科目ごとに授業記録を残している。 シラバスにのっとり、適切に単位を認定している。 学位授与は、学位論文ならびに専攻内における発表会を行い、総合的に判断して授与している。	毎年実施しているポスター発表会で、専攻の教員が修士論文の進行状況も含めた学習成果を把握している。 各科目の担当教員が適切に指標を設定して把握し、単位認定を行っている。 専攻内発表会において専攻の教員が学習成果を把握している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について、個々の教員が学習成果の把握結果を元に点検・評価を行っている。 授業評価アンケートを実施し、個々の学生の状況を把握した上で、成果の測定の改善に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 豊饒の海、オホーツク海を目の前にし、座学を実体験として学び、分野の特性に合わせた学びができる	【長所】 自身の研究内容をまとめ、発信する力のトレーニングとなる。 学生同士、自身の研究を鑑みながら、異なる研究を知る機会がある	【長所】 なし	【長所】 専攻の教員による修士論文の進行状況の把握 異なる分野の教員からの意見を聞ける	【長所】 なし
	【特色】 水圏に関わる生物学的・生態学的・環境学的特性に関する専門的知識の修得	【特色】 学生同士が議論できる	【特色】 なし	【特色】 学生の研究状況を各教員が把握しているため、指導教員以外の教員からの意見を聞ける	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 学生によっては、フィールド調査等と授業が重なることがある	【問題点】 成績評価の客観性や厳格性を担保するための措置に関して明確な基準が無い	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし。	【課題】 成績評価の客観性や厳格性を担保する基準作成が必要である。	【課題】 なし	【課題】
根拠資料名	学修のてびき・講義要項<シラバス>	成果発表会のポスター 授業記録	授業記録	修士論文	学習の手引き、講義要項<シラバス> 授業評価アンケート

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集方法及び入学者選抜制度適切に整備し、指導教授全員による口述試験を実施するなど、入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。 受験予定者には、事前に指導教授（予定）と面談を行い、入学後の研究計画等について相談をおこなっている。 試験問題（外国語・専門科目）の作成は専攻の指導教授、大学院授業担当者が行い、口述試験は全指導教授により実施し、その結果を踏まえ、全指導教授の合議のもと、公正に入学者を選抜している。	学生受け入れの適切性について、専攻で受け入れた学生の学習成果を元に点検・評価を行っている。また、その点検・評価結果に基づき、学生受け入れの適切性について改善に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 口述試験では専攻の全指導教授であたるため、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力を評価することができる。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし。	【問題点】 指導教員による指導学生の学習成果の点検・評価は行っているが、専攻内教員の中での情報共有という点でやや不足である
	【課題】 なし。	【課題】 現状分析のための手法、点検・評価そして改善までの仕組みを構築する必要がある。 専攻内教員による学生の情報共有できる仕組みを構築する必要がある。
根拠資料名	研究科委員会会議資料 東京農業大学大学院募集要項 東京農業大学大学院ホームページ	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アクアバイオ学専攻として求める専門分野に関する能力や教育に対する姿勢を、教員募集の際に大学ホームページに掲載して、応募してきた候補者から教員を選抜している。	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。専攻内は 2 分野体制（オホーツク水圏環境分野、オホーツク水産生物学分野）である。	教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページにて募集している。採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査を実施している。	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を提出している。	専攻における人事計画（指導教授や指導准教授への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻内で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 オホーツクの水圏を意識した研究活動のできる業績・考えを持った教員であること	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 安定的な専攻運営を行う上で、指導教授の人数が不足気味	【問題点】 基礎学科の中に、大学院授業に関わっていない教員が複数いる。昇格に積極的で無い教員がいる。	【問題点】 FD の組織的な活動が不十分である。依命留学制度が利用されていない	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 基礎学科からの指導教授ならびに指導補助教員の人数を増やす	【課題】 大学院運営に関われる教員数を増やす	【課題】 大学院における FD 活動の活発化 依命留学制度を利用しやすい環境作り	【課題】 適切な根拠に基づく点検と改善を行う。
根拠資料名	教員募集に係る大学ホームページ	大学院案内 学修の手引き 講義要項<シラバス>	教員募集に係る大学ホームページ 資格審査委員会資料	自己教育評価アンケート 授業評価アンケート 修了時の研究室アンケート	なし

学部・研究科名生物産業研究科

学部長・研究科委員長名吉田穂積

学科名・専攻名食品香粧学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	香粧品と食品に関する最新の知識を教授するため、トピックスを交えた特論科目を配置している。先端的な民間企業人を招き、ホットな話題について講義を設定している。 コミュニケーション能力を養うための学会発表法を教授する科目を開講している。研究の立案、実施、考察、文献検索などを実施して修士論文を完成させるために特別総合実験・演習科目を開講している。	年1回（11月）、研究成果をポスター形式で学内に掲示・発表させている。講義ごと、教員ごとに対するアンケートを実施することで、学生の要望に応え就学意欲が増す講義に改善していく仕組みを持っている。	シラバスに則した講義を行い、授業記録をとり適切な成績評価・単位認定を行っている。 研究室の全教員による複数指導を行っている。	少人数の講義を実施し、学生個々の習熟度を把握している。 プレゼンテーション技術演習等演習科目ではアクディブラーニングを実施し、コミュニケーションを通じた学習成果の把握をしている。 修士論文の中間発表会に他の専攻の教員に参加してもらい、質問に対する答え方で習熟度を把握している。	定期的なゼミ及び中間報告会で、指導教員全員が全て学生の研究内容と進捗を把握している。 授業・研究室アンケートにより教育内容の適切性を点検している。複数指導により教員間で学生の習熟度を把握し討論している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 自分の研究の進捗状況を把握し、第三者の意見を聞く事ができる。	【長所】 ・学生の受講状況を把握できる。 ・講義内容を教員全員が把握できる。	【長所】 学生のまとめるチカラ、質問力、回答力が涵養される	【長所】 学生の習熟度に沿った指導を施せる。
	【特色】 ・食品と香料および化粧品に関する実践的な専門知識を身につける事ができる。	【特色】 他分野における研究の動向を知る事ができる	【特色】 なし	【特色】 第三者に研究内容を理解させ疑問に回答する能力を身につけることができる。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 効果の波及として、ポスター発表を見る事のできる学部生が限られている。	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・産業界のニーズに則した講義科目の設定	【課題】 アンケート内容を教育に反映する方法 学部生へのポスター発表聴講への動機付け	【課題】 異分野の研究に対する学生と教員の理解度の充実	【課題】 専門以外の関連分野に関する知識の習熟度の把握	【課題】 学生ごとの習熟度の詳細な把握

根拠資料名	学修のてびき・講義要項＜シラバス＞	授業・研究室アンケート	授業記録	修士論文、発表ポスター	授業・研究室アンケート（指導に対する満足度など）
-------	-------------------	-------------	------	-------------	--------------------------

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明					
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名					

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名吉田 穂積

学科名・専攻名自然資源経営学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するためにフィールドワークを重視し、それを通じて、ヒアリングや実態調査を遂行するための方法を伝えている。	10月に中間報告会を設け、研究の進捗状況を報告し、忌憚のない意見交換を行っている。	科目ごとに授業記録を取ることににより適切な評価と単位認定を行うとともに、複数人体制による論文指導を行っている。2021年度から専攻において学位論文の判定根拠資料に基づいた判定を行っている。	研究テーマに関連した研究会や国内での学会への参加をさせて発表させるようにしている。	研究成果の質向上に向けて、12月に完成前報告会を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・基礎となる学科の学びをベースに、産業経営学を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	【長所】 ・自分の研究成果を理解してもらえるための練習となる。	【長所】 ・教員がどのようなことを教えたのかの記録となり、教育効果を把握しやすい。	【長所】 修士論文に関係する内容が、実際へ適用される可能性など社会貢献の意味合いも期待できる。	【長所】 現状把握ができ、標準修業年限（2年間）での修士取得につながる。
	【特色】 ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、生産、加工、流通・ビジネスを高度に学ぶことができる。	【特色】 ・大学院を修了し、社会に出た場合、多くの方に自らの考えを理解させる能力が養える。	【特色】 ・学位論文の評価基準が明瞭になる。	【特色】 ・なし	【特色】 複数教員によるチェック体制やアドバイスをうけることができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・コロナ禍もあり学会という場をなかなか体験できなかった。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・フィールドワークの分析手法やアンケートの分析方法などの基礎を習得する科目の設定の是非。	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし	【課題】 ・対面による学会の場合は、遠隔地に位置するため、旅費が必要となる。	【課題】 ・なし。
根拠資料名	学修のてびき・講義要項＜シラバス＞	年間スケジュールと指導内容 博士後期課程研究支援制度の募集案内 学則等の規程	講義要項（シラバス）	大学院事業報告 掲載学術論文	院生との面談記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。 指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施するとともに、指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。 研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否判定をしている。	修士論文の進捗状況を指導教授が定期的に点検している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生が指導を受ける指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・
	【課題】 ・外国人留学生（中国）への大学院生募集案内の周知	【課題】 ・
根拠資料名	東京農業大学大学院募集要項 東京農業大学大学院ホームページ	なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。 外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。	教員採用は一般公募として、大学のホームページ、JREC-IN で募集情報を掲示している。採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。昇格等は自己申請を基本とするが、大学の定める審査基準により公正かつ厳格に実施している。	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。	専攻における人事計画（指導教授、指導准教授や指導補助教員への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻会議等の中で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・改善すべき目標を具体的に把握することができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること。	【特色】 ・なし	【特色】 ・資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・指導教授資格を有する教員が退職するため職階に応じた計画的な昇格、採用が必要である。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・教員の専門性に合わせた科目編成。	【課題】 ・職階に応じた専門性と教育研究業績を有する若手教員の採用。	【課題】 ・なし	【課題】 ・専攻、研究科、事務部が連携した人事のチェック体制
根拠資料名	研究科及び専攻の編制方針 教員募集に係る大学ホームページ	大学院案内	資格審査委員会資料	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学院案内

学部・研究科名 生物産業学研究科
学部長・研究科委員長名 吉田穂積
学科名・専攻名 北方圏農学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■現行カリキュラムの点検・改正 本専攻は令和4年度に北方圏農学科に名称を変更した。現行カリキュラムの問題点等を抽出・把握し、ディプロマポリシー（見直しも想定して）に掲げる人材を輩出するという視点により、北方圏の動植物資源の利用と生態系保全、それらを活用するバイオテクノロジー研究を重視した、学修効率の良い魅力のある大学院専攻カリキュラムを策定、令和5年度の学則改正を目指す。	■研究室横断型ゼミ 研究基礎力の養成と研究活性化を目指し、研究室間の垣根を外し、似た学問領域の大学院生と教員による論文抄読会と研究発表を中心とした勉強会を発足する。まずは自主的なところから施行し、効果を検証した後にカリキュラム内に取り込む。	
実行サイクル	3 年サイクル（令和2年～4年）	3 年サイクル（令和4年～6年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和4年度> ・3分野体制に基づいた柱科目設定と全面的なカリキュラム改定。	<令和4年度> ・計画立案とグループ形成	
目標達成を測定する指標	<令和4年度> 完成を目指す	<令和4年度> ・実施記録	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☒ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	現行2分野（植物資源生産学分野・動物資源生産学分野）に新たに生物資源保全学分野を創設した3分野体制を構築した。これにあわせてカリキュラム内容を刷新し、現行では基礎科目（9）、特論科目（4）、研究科目（5）（カッコ内は科目数）を基礎科目（10）、特論科目（6）、研究科目（7）に拡充した。令和4年度10月合同研究科委員会に学則改正について付議され、令和6年4月施行が承認された。現行カリキュラムについてはシラバスの点検（第三者チェック）を行った。	研究分野の一致する一部の教員間において、開催しているゼミ活動に学生の交流があるが、あくまでも限定的である。 これを専攻内に広げるには研究室における大学院生数の偏りがあること、参加する学生の負担が多くなる、専門的な議論が成立しにくくなる、などの問題があり、実行にいたらなかった。あくまでも自主的な活動にとどめることにした。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】3分野体制である基礎学科（北方圏農学科）との整合性が保たれることから、進学者にとって研究内容に合致した分野に進める。	【長所】 ・研究活性化	【長所】 ・
	【特色】 ・分野に則した特論科目を設置した。	【特色】 ・研究基礎力の養成	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・大学院生数の偏りがある ・参加する学生の負担が多くなる、・専門的な議論が成立しにくい	【問題点】 ・

年度への課題	【課題】 ・なし	【課題】 ・自主的な活動にとどめる	【課題】 ・
根拠資料名	生物産業学研究科専攻主任会議資料 合同研究科委員会資料	なし	

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■重点的研究領域の強化 専攻の特色や優位性を強化するため「研究室・分野横断型のプロジェクト研究」を設定し、大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。		
実行サイクル	____ 3 ____ 年サイクル（平成 ____ 年～4 ____ 年）	____ 年サイクル（平成 ____ 年～ ____ 年）	____ 年サイクル（平成 ____ 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	<令和4年度> ・専攻の研究分野における強み・弱み等の把握（～8月） ・重点的領域研究のテーマ設定（～10月） ・学内外の公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請等準備（～2月）		
目標達成を測定する指標	<平成4年度> ・専攻の研究分野における現状分析結果 ・プロジェクト参画教員・大学院生数 ・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成		
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	新規な研究室・分野横断型のプロジェクト研究を呼び掛けるには至らなかった。各自の取り組みとして令和4年度に採択継続中の 科研費受給（代表・分担含む）8件 競争的資金件数3件 受託研究12件の実績がある。総合研究所のプロジェクトへの応募実績あり。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 活発な研究活動が行われている	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・大学院をアピールする材料となる。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・個人の研究テーマとの両立	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	全学教授会資料 合同研究科委員会資料		
-------	-----------------------	--	--

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み 専攻のアドミッションポリシーに基づき、意欲的な人材の確保（定員充足）を目的とし、特に基礎学科からの進学率向上を目指して研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の活動を実施し、学部と大学院の交流を活発化する。 ・キャリアデザインの一環として基礎学科1年生への大学院説明会 ・外部講師を招聘した先端的セミナーの開催を企画し、広く聴講を呼びかけ、アカデミックな環境を醸成する。 ・基礎学科4年生の英語塾開講		
実行サイクル	3 年サイクル（令和2年～4年）	年サイクル（平成 年～ 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和4年度> ・4月～5月英語塾開校準備、 ・6月～9月英語塾指導（大学院生はTAとして参加） ・10月基礎学科1年生に向けた大学院説明会開催		
目標達成を測定する指標	大学院進学者数と合格者数 授業評価アンケート		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	1年生フレッシュマンセミナーにおいてキャリア形成としての大学院進学と女性の職業としての研究者について講義した。 6月から9月にかけて英語塾を開講し、教員3名により運営した。他大学院を受験した学生を含めて8名が受講した。 令和5年度の入学者は6名であった。（令和4年度は5名）		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・大学院の活性化につながる取り組みであり、継続したい。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・学生の望むキャリア選択材料を提供し、実現への手助けをする。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	生物産業学研究科専攻主任会議資料		
-------	------------------	--	--

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名吉田 穂積

学科名・専攻名アクアバイオ学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	■現行カリキュラムの点検・改正 令和 4 年度より海洋水産学専攻に名称を変更する。名称変更と合わせ、現行カリキュラムの問題点等を抽出し、本専攻で掲げるディプロマポリシーを達成すべく、カリキュラムの改正内容によっては現行の分野体制の検討も行う。
実行サイクル	3 年サイクル（令和 2 年～4 年）
実施 スケジュール	<令和 4 年度> ・専攻内における分野体制の検討（～12 月） ・現行カリキュラムの点検→問題点等抽出（～10 月）
目標達成を測 定する指標	<令和 4 年度> ・現行カリキュラムの問題点の抽出 ・新カリキュラム作成
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	カリキュラムを検討したが、現状で十分な内容と考えられた。また、R6 年度の新カリも同様の内容で十分と考えられた。 一部専攻共通科目の見直しを行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 専攻名が変わったが、カリキュラムは十分な内容と考えられた。
	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし
	【課題】 なし
根拠資料名	シラバス

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	■重点的研究領域の強化 専攻の特色や優位性を強化するため「研究室・分野横断型のプロジェクト研究」を設定し、大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。
実行サイクル	__3__ 年サイクル（令和 2 年～4 年）
実施 スケジュール	＜令和 4 年度＞ ・専攻の研究分野における強み・弱み等の把握（～8 月） ・重点的領域研究のテーマ設定（～10 月） ・学内外の公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請等準備（～2 月）
目標達成を測 定する指標	＜令和 4 年度＞ ・専攻の研究分野における現状分析 ・プロジェクト参画教員・大学院生数 ・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	豊穡の海オホーツク海をメインフィールドとして教育研究を実施しており、何よりのつよみである。 公募研究に関しては、専攻全体としての取り組みができていないが、教員毎に調査して、適切に対応している。 重点領域の設定については、次年度以降の課題となる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 世界 4 大漁場の一つであるオホーツク海をフィールドとして教育研究ができる。 【特色】 地の利。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 重点領域の設定ができていない。 【課題】 専攻として取り組むべき研究領域の選定
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み 専攻のアドミッションポリシーに基づき、優秀な学部生および社会人等の多様な人材を確保して定員充足するために、研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。 ・教育・研究室活動において機会を積極的に捉え、大学院入学への啓発を行うとともに、学会発表や HP などにより、本専攻の教員および大学院生が実施している研究の魅力の発信を行う。 ・学科 1 年生への大学院の説明や研究室訪問をうながす
実行サイクル	3 年サイクル（令和 2 年～4 年）
実施 スケジュール	＜令和 4 年度＞ ・主事 WG を主体とした課題設定、スケジュール等調整（～7 月） ・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー）の検証（～10 月） ・次年度広報・募集活動計画の立案（～3 月）
目標達成を測 定する指標	＜令和 4 年度＞ ・現行実施の広報関係企画の評価結果 ・次年度広報・募集活動計画策定 ・令和 5 年度入試志願者状況（人数、レベル、社会人数等）
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	専攻の定員を確保した。 他大学からの受験生があり、入学することとなった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 多様な学生の確保ができた。 【特色】 共同研究など、深化した研究活動が期待される。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 定員確保に難渋している。 【課題】 さらなる広報活動が必要。
根拠資料名	

学部・研究科名 生物産業研究科
学部長・研究科委員長名 吉田穂積
学科名・専攻名 食品香粧学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	新カリキュラムの作成と運用 学科を卒業し、食香粧化学を修めた人材が、食品や香粧品の加工・機能性・安全性に関するより高度で専門的な知識と技能を修得できるカリキュラムを作成する。学会や産業界で指導的役割を果たす人材を育成するため、ディプロマポリシーに則した特色のあるカリキュラムを令和4年度までに作成し、6年度から運用する。		
実行サイクル	3 年サイクル（令和2年～令和4年）	年サイクル（平成 年～ 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	・学科が輩出人物像の設定 5月 ・学科カリキュラムポリシーに基づく科目構成の構築 5月～7月 ・構築した科目のシラバス作成と科目間連携の明文化 9月 ・構成科目の実効性検証 10月		
目標達成を測定する指標	<令和4年度> ・研究科に提出する新カリキュラム案		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	新カリキュラムを構築し、学生教務課に提出した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・食・香・化粧が学べるユニークなカリキュラム	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・大学院生数の安定獲得	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	文科省への提出書類		
-------	-----------	--	--

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■実学を目指した研究の強化 食品、化粧品、香料の開発には、大学における基礎研究と産業界におけるその応用の両者が必須である。科学的根拠を最重視することを踏まえた上で、専攻の目的である美と健康、QOL の向上につながる製品の開発につながる研究を推進する。		
実行サイクル	3 年サイクル（令和2年～令和4年）	_____年サイクル（平成 _____ 年～ _____ 年）	_____年サイクル（平成 _____ 年～ _____ 年）
実施 スケジュール	・企業との共同研究のおよび公募型研究資金の申請（通年） ・研究の実施と学会発表(通年)		
目標達成を測定する指標	・企業との共同研究、公募型研究資金への応募、参画人数 ・研究業績（学術論文、学会発表）		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	企業や公設試験場等との共同研究が獲得できた。引き続き共同研究を推進していく。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究の活性化	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・実学教育に繋がる実学研究	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・研究を担う大学院生の安定確保と就職先としての共同研究企業	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	・ 共同研究契約 ・ 大学院研究成果集		
-------	------------------------	--	--

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■アドミッションポリシーに則した優秀な学生確保のための活動強化 専攻のアドミッションポリシーに合致し、かつ研究に対する潜在能力の高い学部生、社会人および外国人等多様な人材を確保（定員充足）するために、入試説明会、相談会の他、ホームページ、SNS、講義および研究室活動を通じて専攻の研究を積極的に発信する。よりよい企業への就職を目指すキャリア教育		
実行サイクル	<u>2</u> 年サイクル（令和4年～平成5年）	_____年サイクル（平成 年～ 年）	_____年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	・入学後ガイダンスでの戦略的キャリア教育（4月～） ・学部生に対する専攻の特色と3つのポリシーの周知（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー等、～10月） ・主事WGを主体とした広報戦略の立案と実施（～1月） ・次年度広報・募集活動計画の立案（1～3月）		
目標達成を測定する指標	・学科フェースブック、ツイッターおよびホームページへの大学院関連情報（研究内容、学会・論文発表）の掲載 ・次年度広報・募集活動計画の策定 ・入試志願者状況（人数、出身母体）		
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	R4は定員充足に至らなかった。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・よりよい会社への就職実績向上（学部時代からの目標設定や動機付け）	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・大学院生名簿（在籍者数）		

学部・研究科名 生物産業学研究科
学部長・研究科委員長名 吉田 穂積
学科名・専攻名 自然資源経営学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■教育カリキュラムの改善に向けた検討	■専攻としての年間を通じた計画的な論文指導体制	
実行サイクル	3 年サイクル（2020 年～2022 年）	3 年サイクル（2020 年～2022 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	5 月 次期カリキュラムに向けた課題把握と改善点 11 月 次期カリキュラムの構築	5 月 自己紹介と研究構想の発表 7 月 調査計画の発表 10 月 中間報告会の実施（ポスター発表会への指導） 1 月 審査報告会の実施	
目標達成を測 定する指標	2024 年度 自然資源経営学専攻カリキュラムの策定	計画的な論文指導	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	カリキュラム改正（名称変更と新規）により、生産システム特論、国際学特論、東アジア農業経営経済特論、文化観光特論、ネイチャーマネジメント特論、地域ビジネス特論、環境経済政策特論、産業経営史特論を設置した。	修士課程について改善された計画的な論文指導体制のもとで実施することができた。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・専攻の教育・研究目標と指導教授の研究領域をマッチングした科目編成となっている。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・学部教育と連動したネイチャー系とビジネス系の科目バランス	【課題】 ・英語試験を踏まえた最終審査のタイミングを改善する必要がある。	【課題】 ・
根拠資料名	カリキュラム改正に関する資料		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■連携協定や共同研究などを活用した研究プロジェクトの実施	■大学院生の学会等への参加と報告	
実行サイクル	____ 3 ____ 年サイクル（2020 年～2022 年）	____ 3 ____ 年サイクル（2020 年～2022 年）	____ 年サイクル（平成 ____ 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	5 月 具体的な取り組み内容の検討、担当者・参画教員の選定 6 月 連携先機関への打診 7 月 実施に向けた連携先機関とのスケジュール調整	5 月 研究計画の策定（学会所属と学会参加） 6 月 学会報告の可能性の検討 10 月 学会への参加（または報告）	
目標達成を測 定する指標	プロジェクト研究の企画と外部資金への応募 連携研究プロジェクトの策定	学会参加および報告の実績	
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☒ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	具体的な研究プロジェクトの構想には至らなかった。	在籍している大学院生による学会報告はなかった。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究による地域貢献につなげられる。	【長所】 ・研究に対する客観的な評価が得られる。	【長所】 ・
	【特色】 ・学生が研究成果を認識・実感できる。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・プロジェクト研究に対する学生への積極的な動機付け	【問題点】 ・コロナ禍もあり学会への参加が見られなかった。	【問題点】 ・
	【課題】 ・プロジェクトにより地域貢献を学生が実感できる仕組みであること。プロジェクト参画企業、団体がプロジェクトに参加する意義があったと実感してもらえる仕組み作りの検討。	【課題】 ・研究領域に関する学会に所属することが必要である。	【課題】 ・
根拠資料名			

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■受験生確保に向けた取り組み		
実行サイクル	____ 3 ____ 年サイクル（2020 年～2022 年）	_____ 年サイクル（平成 ____ 年～ ____ 年）	_____ 年サイクル（平成 ____ 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	5 月 フレッシュマンセミナーなど早期の学部学生への大学院教育 や研究内容のアピール 11 月 ポスター発表会における大学院教育や研究内容のアピール		
目標達成を測 定する指標	2023 年度入試志願者状況 ポスター発表会への参加者		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・学部学生に対する大学院の説明会を実施し、学部のゼミ学生に対し て大学院のポスター発表会への参加を促すなどしたが、実際に自然資 源経営学専攻の受験者は1名だった。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・ポスター発表会では、大学院生が主体的にレイアウトを工夫して導 線を考慮にいった効果的なポスターの配置を行った。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学部から受験する大学院生が少ない。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・指導教員からの学部学生への大学院進学への動機付けを工夫する 必要がある。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			